

近畿双松会報

平成16年度
(2004)



島根県立松江中学校
島根県立松江高等学校
島根県立松江北高等学校

ごあいさつ

近畿双松会会長 山本雅昭

月日が経つのは早いものでもうあと一ヶ月余りで今年も暮れようとしております。

この一年、近畿双松会の皆様方、お元気で、楽しい日々をお過ごしであったと拝察致しております。

さて、この「ごあいさつ」を書いている最中は、日本各地の観測所で、気温・期間共に新記録続出の猛暑。ちまたでは、ずっと赤道に近い国々、シンガポール・ホンコン・台北へ避暑に行った方が具合いいとも云われています。それと共に関西地方や、中越地方で地震の続発、米国「ペンタゴン」ではイラクや北朝鮮問題より日本列島の異常さを注視し、万一、日本列島の全部、一部が陥没等の異変が生じた場合、米軍基地のシミュレーションを真剣にやっていると聞きました。

次は毎夜、テレビ観戦のアテネオリンピックです。メダル獲得数が暑さと同じく史上最多記録を更新しました。特に過去、「弱い」と云われていた個人競技で圧倒的に多くのメダルを獲ったのがすばらしく、昨今とかく、「近頃の若い者は心身共に軟弱でアカン」と云われていますが決してそうでなく日本の若者、たのもしく、いいじゃないですか。

そして応援、競技場でのナシヨナリズムは大変なものでした。日本人メダリスト達は帰国後すぐ、それぞれのふるさとへ帰り、大歓迎を受け、地元では誉れをたたえ大々的なイベントを催していました。

民族、国家、故郷、仲間の名誉意識と帰属感覚は初代ギリシャ以来、人類にとつて古今東西を問わず、永遠に不変、不滅とも思いました。

ところで、わが近畿双松会は、世話役の方々の並々ならぬ助力により、今年も、この会報作り、ホームページの作成、行楽会、ゴルフコンペ、各期の同期会そして最大イベント「総会」等々、ボランティアによって無事運営する事が出来ました。

来年はもう少し工夫と知恵を出して、皆様方により楽しい時を過ごしていただきたいと願っております。又、いいお考えなどがありましたらぜひ、お教え下さい。

最後になりましたが、当会運営について日頃、お世話下さった方々に心よりお礼申し上げますと共に会員皆様がお元気で楽しい日々を送られる事をお祈り申し上げます。

御 挨拶

松江北高等学校校長 和田 秀 穂

近畿双松会の皆さま方には、常日頃から母校の松江北高へ温情あふれる御支援を賜り、大変有難うございます。松江北高ではこの四月から全ての学年で九学級編制となり、現在、全日制では二十七学級、一〇七六名の生徒が赤山に毎日通ってきています。最近の特記事項は何といっても、六月の鳥根県高校総合体育大会（県総体）で二年連続「十八度目の男女総合優勝」を飾ったことです。しかも、男子総合一位と女子総合一位という「ダブル優勝」は北高史上でも過去にわずか二度しかなく、今回で三度目という快挙でした。得点も204点で二位の161点（出雲高校）を大きく引き離して、堂々たる「完全優勝」でした。

もちろん部活動だけではありません。かたくなに「文武両道」を校是に掲げる本校としては、生徒の日常の学習振りにも大変気を配るところです。お陰さまで生徒の学習意欲は以前と変わらず極めて高く、学習態度も良好で、今、北高は教職員も生徒も意気軒昂です。この三月の進学状況ですが、国公立大学合格者304名、私立大学385名、短大等87名でした。近畿地区二府四県の大学には、国公立では滋賀大学、兵庫県立大学各10名、神戸大学9名、大阪大学、大阪府立大学各7名、京都工繊大学5名、京都大学、和歌山大学各3名、奈良女子大学2名、京都教育大学1名合格しています。私立では関西大学69名、龍谷大学22名、立命館大学12名、京都産業大学10名、同志社大学6名等他数の者が合格しています。近畿同窓会では年次総会へ「学生世代」の卒業生に参加を呼びかけるお考えもあると伺いましたが、新卒者が多数入会すればにぎやかな会になるだろうと大いに期待されると思います。

今、鳥根県内での話題は何といっても、八月一日から二十四日にかけて、約三万四千人（選手・監督二万九千人、

